

平成 30 年度第 1 回東大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部会議 議事要旨

【開催概要】

1. 開催日時 平成 30 年 7 月 3 日（火）10:00～11:10
2. 場所 東大阪市本庁舎 18 階 大会議室
3. 出席者
本部長 野田市長
副本部長 川口副市長、立花副市長
本部員 各部局長
事務局 企画室 竹本、見掛、浦塘、樋野

【案件】

- 1 まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成 29 年度実績及び平成 30 年度取組内容
- 2 人口移動状況の報告
- 3 転入転出アンケートの実施について

【会議要旨】

【事務局より案件 1 の説明】

- 《資料 1》に基づき、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付けた事業のうち、平成 29 年度に取り組んだ実績等について説明
 - ・ 個別事業の K P I を見直すこと、本市の転出入者にアンケートを取って分析し、今後の対策として活用していくことを説明。
 - ・ 平成 29 年度に取り組んだ事業の実績を説明。

（立花副本部長）

- 全体的な感想だが、総合戦略の位置づけは人口減少のスピードを緩やかにするということ。それからすると、各所管の事業が人口減少対策にかなっているかを検証していかないといけない。なぜ八尾に行くのか、その原因は何かを掘り下げていかないと、本市に欠けているものを把握して、何をすべきかを原局で根本的に見直しをしてもらいたい。子育てする世帯が東大阪市に住みたいなと思ってもらえるような、親の目線で施策を打っていないと、実のあるものになって行かない。
- 教育が入っていないがなぜか。

(事務局)

- ・全庁的に平成27年度に総合戦略を策定する段階で事業を集めたが、新規事業だけを集めたため、タイミングが合わなかったこともあり、個別施策としては紐付けていない。
- ・また、案件3でご説明をするが、特に転出者の分析においても、教育環境の充実といった項目も設けているため、数値が高いようであれば、今後、検討していただいて掲載できればと考えている。

(川口副本部長)

- 従前からまちの安全安心や防犯、治安の良さが大きなウエイトを占めていることが世論調査からわかっているが、今後入れていくのか。

(事務局)

- ・転出入のアンケート調査結果を9月に集計して庁内で共有させていただき、そこから各所属でなぜ転出したのかの理由で数値が高い項目については、是非検討していただき、総合戦略の見直しの照会もかけさせていただくので、取り組めるものを追加していただければと考えている。

- 《資料2》に基づき、東大阪市の人口移動状況について説明
 - ・大阪府内への転出が減少。
 - ・大東市からの転入が多く、八尾市への転出が多い。
- 《資料3》に基づき、転入転出アンケートの実施について説明
 - ・アンケート項目とスケジュールについて説明。アンケート項目については、意見があれば事務局に連絡をもらう。
 - ・アンケート結果は9月末頃に結果を庁内で共有していき、平成31年度の事業検討に活用してもらう。

(本部長からの意見)

- アンケートの移動の理由のところ、公教育の充実という項目がある。例えば、子どもが灘中に合格した場合と、生駒市立中学校に入学したいからという場合は、根本的に違う。公教育を灘中レベルにしていくことなどは対応できないので、私学のことはどうしようもない。そこをシビアに見れるように設定をするように。
⇒ 後々しっかりと分析ができるよう、項目を再設定していく。

【本部長である野田市長の意見】

- 人口減少という課題は非常に重要。昼夜間比率は1を保っているか。
⇒ 正確な数値は持ち合わせていないが、1を超えている。
- 中小企業のまち、あるいは大学のまちとして昼夜間比率は重要な数値。そこで、出生率の向上や転出超過の対策に向けて施策を行っていくわけだが、資料3-1の⑦の転入超過市町村の事例にあるように、本市は全体を見ると他市と見劣りするようなことはないと思う。なぜなのかというと、見せ方や知らせ方の問題が大きい。まさに知っている人しか知らない。情報の出し方は大事。
- 公教育の学力向上は、人口を増やす、呼び込む大きな課題。学力向上をはっきりと打ち出しをして取り組んでほしいと期待している。
- 今日の朝、青パトの出発式という事で、楠根小学校に行った。以前、石切東小学校に行ったとき、子どもたちが体育館に入ってきたときに、先生が言わなくても自主的に並び出したが、楠根小学校はそのようなことがなかった。こういったことが学力向上につながってくると思う。教育委員会には、学力向上という観点から取り組んでもらうようお願いしておく。
- 情報の見せ方やまちづくりを考える際、人が集まるまち、あるいは住みたくなるまちをどう思うかということ、新規採用の職員や課長研修の際、11年間機会があるごとに言ってきている。長瀬川には柵がある。夙川には柵がない。まちづくりの観点からどうなのかと言ってきたが、誰も私はこう考えますと言ってきた者がいない。このあたりは我々の弱いところ。いろんな取組みをしているが、若い職員も一緒に考えてくれているのか。あるいはこうアレンジしたらいいよという提案があるのか、あるなら汲みとってやっているのかは重要なところ。柵についても、そういった住みやすいまちのイメージをつくって、具体的な施策を進めていくことが大事だと思うが、それができないと、全国的に人口が減少する中で本市が人口減少抑制していくのはなかなか難しい。本市は市街化調整区域もほとんどなく、新たな大規模な宅地開発ができる区域がない中で、人口を減らさない、ある意味で50万を維持していく精神的な目標を実現していくのは難しい。是非広い意味でまちづくりを考えて行動できるように。
- 着眼大局、着手小局で、常に考えていかなければならない。本市の医療センターは、小児科の医師が減少している。八尾の市民病院は一定数の小児科の医師がいる。本市は将来を考えて大阪大学や奈良県立医大との関係を保ちながらレベルアップを図って進行中であるが、八尾市はとにかく必要な医師を速やかに集め、学閥を考慮せずに進めている。どちらがいいのかわからないが、我々は両方とも考えなければならぬのは事実で、難しい課題を背負ってやっている。ここは市の踏ん張りどころなので、知恵を絞って若い職員も含めてチーム力で、市から給料をもらっていることを意識して、将来にわたって繁栄させていくため、真剣に課題に向き合っていただきたい。

—以上—